



## 施設スタッフは利用者に狎れてはいけない

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（23）】家族の頻繁な面会は利用者を穏やかにする

公開日：2017/12/11 (未分類)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長）

「また、母をたたいてしまいました」とデイサービス利用者、今田康子さん(仮名、84)の娘さんから、施設に電話がありました。今田さんは、食事を一人では取れないほどの認知症でした。

娘さんは、しっかり者のお母さんの変化を受け入れられずにいましたが、同居して一生懸命に介護をされていました。けれども、終わりが見えない毎日の介護に疲弊をされて、時にお母さんに手をあげるようになりました。その度に、自分を責めて泣かれて電話をかけてこられるのでした。

在宅での介護はもう限界ではないかと助言をすると「今までお母さんに大事に育ててもらったことを思い出すと、施設入所の決断はできない」と言われました。

私は、娘さんに「お母さんの介護で娘さんが疲れ果てれば、お母さんにとっても辛いことではないのでしょうか」とお話ししました。さらに、施設に入所をしても家族としての役割と責任は果たせることをお伝えしました。

その後時間はかかりましたが、お母さんは施設に入所をされ、娘さんは頻繁にお母さんの好物や衣類を持って面会に行かれました。お母さんは、思いのほか早く施設に馴染まれました。

さまざまな事情で、在宅で自分の親の介護をしようと願ってもできない家族は大



利用者と飾りつけたツリー（里村氏提供）

勢います。そこで、施設入所が親と家族にとってベストな選択になれば良いのですが、親あるいは家族が施設入所に対して否定的な場合があります。しかし、施設入所をベストな選択ではないにしても、ベターな選択にすることはできると思います。

それには家族の協力が必要です。施設に入所されたとしても、決して家族との関係が終了するわけではありません。親が施設で穏やかに生活するために、できるだけ頻繁に面会に行ったり、可能であれば一緒に外出や外泊をすれば家族としての役割を果たすことができます。

もし、家族が遠方であれば、手紙や電話で家族の思いを伝えることはできます。離れていても自分を思ってくれている家族の存在は、入居している親の心を慰めます。これらは、施設の介護スタッフではできない、家族の役割です。

一方で、介護スタッフには施設での役割があります。介護スタッフから「利用者を自分の親のように思って介護をしたい」と言うのを聞くことがあります。その気持を否定するわけではないのですが、むしろ私は、利用者が親ではないからこそ、安心して介護を受けていただけるのではないかと考えるのです。

介護は仕事の性質上、身体に直接ふれる機会が多いので、利用者と密接な関係になりやすいのです。介護スタッフが自分の親だと思って利用者に接すると、相手のことを思って自分の感情や考えなどを遠慮なくぶつける可能性があります。気づかぬうちに支配や依存関係に陥ることもあります。

介護スタッフは、意識して利用者と節度ある適切な距離を取る必要があります。そして、その距離は利用者と介護スタッフの密接な日々の介護ストレスから守ることにもつながるのです。

利用者の側において意思を尊重し、できることは利用者自身でできるだけしていただき、できないことは支える。安寧した生活を施設で実現するのは、専門職としての介護スタッフの役割です。

家族と介護スタッフがそれぞれの役割を果たし、一緒になって利用者を支援すれば、施設でのQOL(生活の質)を高めることができるのではないのでしょうか。

<この連載は毎週水曜日に掲載しています>

(注) 事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子氏のバックナンバー](#)
- > [議場に赤ちゃんを連れて行った緒方市議を支持します](#)
- > [米国のエルサレム首都宣言に、英国も反対](#)
- > [「\(西田元東芝社長は\) 自己弁護の鎧を着ていた」児玉博氏](#)
- > [いま54万円の日販を60万円にします](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント(MBA)卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護

事業所などの複数施設の担当理事。今年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設予定。

News Socraは、記者30年、新聞協会賞受賞の元日経新聞の土屋直也が編集長をしています。ネットで本当のジャーナリズムを盛り上げたいと思い、ベテランライターによる独自記事とセレクト記事を掲載しています。

トップへ

アプリでもご覧になれます



いいね! 0

シェア 0

ツイート

G+

LINEで送る

[この記事編集](#)

<a href="#">ソクラとは</a>	<a href="#">FAQ</a>
<a href="#">編集長プロフィール</a>	<a href="#">利用規約</a>
<a href="#">利用案内</a>	<a href="#">プライバシーポリシー</a>
<a href="#">著作権について</a>	<a href="#">特定商取引法に基づく表示</a>
<a href="#">メイキングソクラ</a>	<a href="#">お問い合わせ</a>
<a href="#">お知らせ一覧</a>	<a href="#">コラムニストプロフィール</a>

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved